



身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2022.10.28

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと → 金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail

11、12月の石神井川観察は、11/13(木)、11/25(金)、12/8(木)、12/23(金)
9:30JR社宅前街路の観察 10:00帝京大学病院北側の御成橋たもとから再出発

秋の模様は濃くなって、しかし春・夏の気配 も見られる石神井川緑道



↑桜(ソメイヨシノ)の紅葉は、いつもは夏の終わりごろに、他の木々よりも一足早くやってくるのですが、今年は遅いです。それだけ暑い日が続いたということです。



10月の後半になって、今度は一気に冷寒化してきて、他の落葉樹も紅葉をはじめました。上の写真はキズタです。きれいには違いないのですが、やっぱりブチブチのまだら紅葉です。

それよりも、足元の草むらで、この前まで青々と茂っていたエノコログサやメヒシバが茶色の枯れ色に変化しているのを見つめる、これも秋です。

こっちは、季節違いの植物の動き



左の写真の赤い円内の大きな葉は春に花を咲かせる**ハルジオン**の越冬葉。この時期に葉が展開してくるのは普通のことなのですが、左の黄色円内は**ヒメジョオン**で、頂点に蕾を持っています。この数年間の記録では、5月から夏の季節に咲いて、一度花を終わらせてから秋に再開花していたのですが、11月まで咲き続けてはいませんでした。暑い日が続いたので、まだ夏だと思っているのでしょう。

右の写真は**カラスビシャク**の展葉。記録では4月の終わりごろから葉を伸ばして開花、9月には花が落ちて全体が枯れるのですが、今頃に葉を伸ばすとは？ やっぱり季節の勘違いでしょうか。赤塚公園でも盛んに葉を広げているので、石神井川特有の「異変」ではありません。

真実は「秋は秋らしくないとだめ」と思い込んでいる人間の勘違い。気候の異変に気が付かずに過ごしているわけです。



これは珍しい！ センダングサの仲間3種が揃い咲き



左から、黄色い雄しべと雌しべの周りに舌状花（キク科の花の花びらは人間が舌を出したような形をしているので、こう呼ばれています）が付いている**センダングサ**、舌状花がない**コセンダングサ**、花を受けている萼（がく）が大きく発達している**アメリカセンダングサ**。これらの種は希少・貴重というわけではないのですが、野草の種類が多い赤塚公園でも、この3種のセンダングサが近くで観察できる場所はありません。だから、石神井川緑道だって、たくさんの植物が生きていて、見捨てたものじゃないという証拠がこれだといえます。